

平成20年度DPC評価分科会における特別調査①について

概要

1 目的

中医協診療報酬基本問題小委員会においては、DPC導入による医療の質等について継続的に注視することが必要であると指摘がなされてきたところ、中医協診療報酬調査専門組織DPC評価分科会において意見交換（ヒアリング）の機会を設けることとした。事前に実態を把握するため実施したアンケート調査の内容についてとりまとめた。

2 調査方法等

(1) アンケート調査について

平成20年度DPC調査データ（平成20年7月1日から8月31日までの退院患者調査）より該当する医療機関（合計60件）に対してアンケート調査を実施した。（別紙1）

(2) ヒアリング対象医療機関について

アンケート調査に回答した医療機関（回答率100%）のうち、アンケート調査結果等により、合計9医療機関をヒアリング対象として選出した。（別紙2）

3 アンケート調査結果（調査票への主な回答）

(1) ケアミックス型病院について

全病床数に占めるDPC算定病床の割合が、非常に低い医療機関の状況

- ア 脳・神経疾患の急性期からリハビリ、在宅まで一貫した医療を提供している。施設完結型で医療を提供している。
- イ DPC算定病床は少ないが、一般病床は整形外科のみを対象としており、常勤医も6名いる。近隣の総合病院と比べても、整形外科としては地域で最大手。
- ウ 医療費の効率的運用、医療の透明化、コスト効率化というDPCの理念に共鳴したため。
- エ 経営効率が悪くなり、地域の要望に応える事が出来なくなると考え、DPCは不可避と判断したから。

(2) データの質の適切さについて（治癒・軽快の割合）

退院時転帰において、治癒+軽快のうち治癒の割合が非常に高い理由

- ア システムの不具合であった。
- イ 医師、診療録管理士への説明不足であった。
- ウ 白内障、急性アルコール中毒、急性胃腸炎等の入院患者が多いため。

エ　急性肺炎や急性虫垂炎等の急性期疾患については、退院後外来通院の必要性がないもの、白内障は眼内レンズ挿入術を施行した時点、胆石症は石を除去した時点を治癒と考えている。

(3) 部位不明コードについて

医療資源を最も投入した傷病名 I C D 1 0 コードにおいて、部位不明又は詳細不明として分類されるコードの入力割合が高い理由

- ア　狭心症、閉塞性動脈硬化症、急性心筋梗塞が突出して多いため。
- イ　がんや感染症等で入院中に診断が確定しない症例が多い。
- ウ　I C D 1 0 コーディングについての認識不足。
- エ　システム上の不備。

(4) 標準レジメンについて

大腸（上行結腸から S 状結腸）の悪性腫瘍（060035）において、化学療法が行われた患者のうち、標準レジメン（フルオロウラシル+レボホリナートカルシウム+オキサリプラチニン）を使用した患者の割合について
【多い理由】

ア　化学療法委員会により、E B Mに基づいた化学療法レジメンの標準化を厳密に進めており、患者の全身状態に問題のない限り、標準レジメンを積極的に使用する事としている。

イ　エビデンスに基づき治療を行っているため。

【少ない理由】

ア　大腸癌治療ガイドラインでは、FOLFOX、FOLFIRI のいずれもレジメンとして示されており、いずれを選択するかは主治医の判断。

イ　奏効率を考慮し、ベバシズマブを投与する症例が増えてきたため。

※1 FOLFOX： 診断群分類で分岐されている、フルオロウラシル、レボホリナートカルシウム及びオキサリプラチニンを投与するレジメンによる化学療法

FOLFIRI： フルオロウラシル、レボホリナートカルシウム及び塩酸イリノテカンを投与するレジメンによる化学療法で、診断群分類では分岐されていないが、大腸癌治療ガイドラインには記載されている。

※2 ベバシズマブは平成 19 年に薬事承認された「治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌」に対する抗癌剤

アンケート調査について

	調査理由	調査対象 医療機関数	回答数	回答率
1	【ケアミックス型病院について】 全病床数に占めるDPC算定病床の割合が、非常に低い医療機関	10	10	100%
2	【データの質の適切さについて（治癒・軽快の割合）】 退院時転帰において、治癒+軽快のうち、治癒の割合が非常に高い医療機関	30	30	100%
3	【部位不明コードについて】 医療資源を最も投入した傷病名 ICD10 コードにおいて、部位不明又は詳細不明として分類されるコードの入力割合が高い医療機関	10	10	100%
4	【標準レジメンについて】 大腸（上行結腸からS状結腸）の悪性腫瘍（060035）において、化学療法が行われた患者のうち、標準レジメン（フルオロウラシル+レボホリナートカルシウム+オキサリプラチン）を使用した患者の割合が非常に低いまたは高い医療機関	10	10	100%
合		計	60	60
				100%

ヒアリング対象医療機関について

	医療機関名	病床種別・数
1	財団法人脳血管研究所附属 美原記念病院	医療保険病床数 189床 一般 45床 (23.8%) 障害者施設等 45床 (23.8%) 回復期リハビリテーション 99床 (52.4%)
2	株式会社日立製作所 多賀総合病院	医療保険病床数 148床 一般 36床 (24.3%) 障害者施設等 36床 (24.3%) 回復期リハビリテーション 76床 (51.4%)
3	社団法人慈恵会 青森慈恵会病院	医療保険病床数 332床 一般 32床 (9.6%) 療養 36床 (10.8%) 精神 82床 (24.7%) 回復期リハビリテーション 144床 (43.4%) 亜急性期 8床 (2.4%) 緩和ケア 30床 (9.0%)
4	医療法人社団永生会永生病院	医療保険病床数 370床 一般 42床 (11.4%) 療養 54床 (14.6%) 精神 70床 (18.9%) 障害者施設等 104床 (28.1%) 回復期リハビリテーション 100床 (27.0%) 介護保険病床数 258床
5	武藏野赤十字病院	一般 611床
6	医療法人医仁会武田総合病院	一般 500床
7	医療法人社団木下会 千葉西総合病院	一般 408床
8	東京大学医学部附属病院	一般 1150床 精神 60床
9	東海大学医学部付属病院	一般 804床

資料：平成20年度DPC導入の影響評価に係る調査データより作成

ケアミックス型病院について

集計用分類	施設名	医療保険（病床数）										DPC算定病床割合
		総病床数	DPC算定病床数	療養病棟入院基本料	結核病棟入院基本料	精神病棟入院基	障害者施設等入院基	回復期リハビリテーション病棟入院料	亜急性期入院医療管理料	特殊疾患療棟入院料	緩和ケア病棟入院料	
平成18年度DPC対象病院	財団法人 脳血管研究所附属 美原記念病院	189	45	0	0	0	45	99	0	0	0	23.8%
平成20年度DPC対象病院	株式会社日立製作所 多賀総合病院	148	36	0	0	0	36	76	0	0	0	24.3%
平成19年度DPC準備病院	社団法人慈恵会 青森慈恵会病院	332	32	36	0	82	0	144	8	0	30	9.6%
平成19年度DPC準備病院	医療法人社団永生会永生病院	370	42	54	0	70	104	100	0	0	0	11.4%
DPC対象病院平均		436	402	3	1	11	4	9	4	0	2	91.0%
DPC準備病院平均		270	228	11	2	7	7	9	5	0	1	82.0%

※ DPC対象病院平均とは、平成15～20年度DPC対象病院の平均値である。

※ DPC準備病院平均とは、平成20年度時点のDPC準備病院の平均値である。

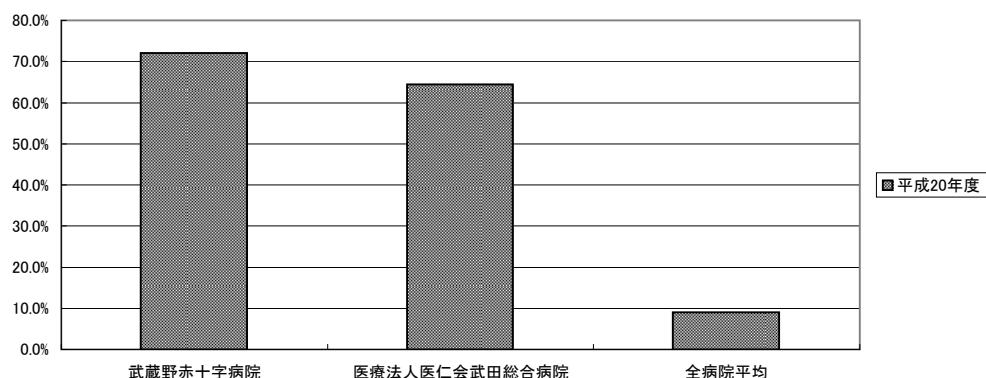
資料：平成20年度DPC導入の影響評価に係る調査データより作成

データの質の適切さについて(治癒・軽快の割合)

集計用分類	施設名	平成20年度		
		治癒	軽快	治癒 (治癒+軽快)
平成18年度DPC対象病院	武藏野赤十字病院	60.8%	23.5%	72.1%
平成20年度DPC対象病院	医療法人医仁会武田総合病院	56.3%	31.2%	64.4%
	[DPC対象病院平均]	7.2%	72.8%	9.0%

※ DPC対象病院平均とは平成15～20年度DPC対象病院の平均値である。

治癒と軽快に対する治癒の割合



平成20年度「DPC導入の影響評価に係る調査」実施説明資料より抜粋

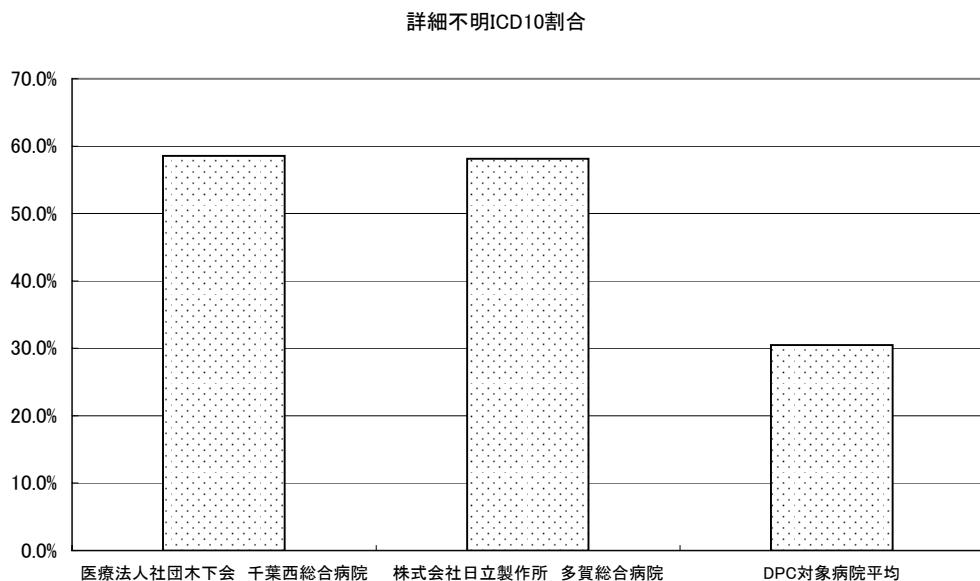
転帰	定義
治癒	退院時に、退院後に外来通院治療の必要が全くない、または、それに準ずると判断されたもの。
軽快	疾患に対して治療行為を行い改善がみられたもの。原則として、その退院時点では外来等において継続的な治療を必要とするものであるが、必ずしもその後の外来通院の有無については問わない。
寛解	血液疾患などで、根治療法を試みたが、再発のおそれがあり、あくまで一時的な改善をみたもの。
不变	当該疾患に対して改善を目的として治療行為を施したが、それ以上の改善が見られず不变と判断されたもの。ただし、検査のみを目的とした場合の転帰としては摘要しない。
増悪	当該疾患に対して改善を目的として治療行為を施したが、改善が見られず悪化という転帰を迎ったもの。

詳細不明ICD10割合

集計用分類	施設名	詳細不明ICD10 件数	退院患者数	詳細不明ICD10 割合
平成18年度DPC対象病院	医療法人社団木下会 千葉西総合病院	1,081	1,846	58.6%
平成20年度DPC対象病院	株式会社日立製作所 多賀総合病院	136	234	58.1%

DPC対象病院平均	403	1,323	30.5%
-----------	-----	-------	-------

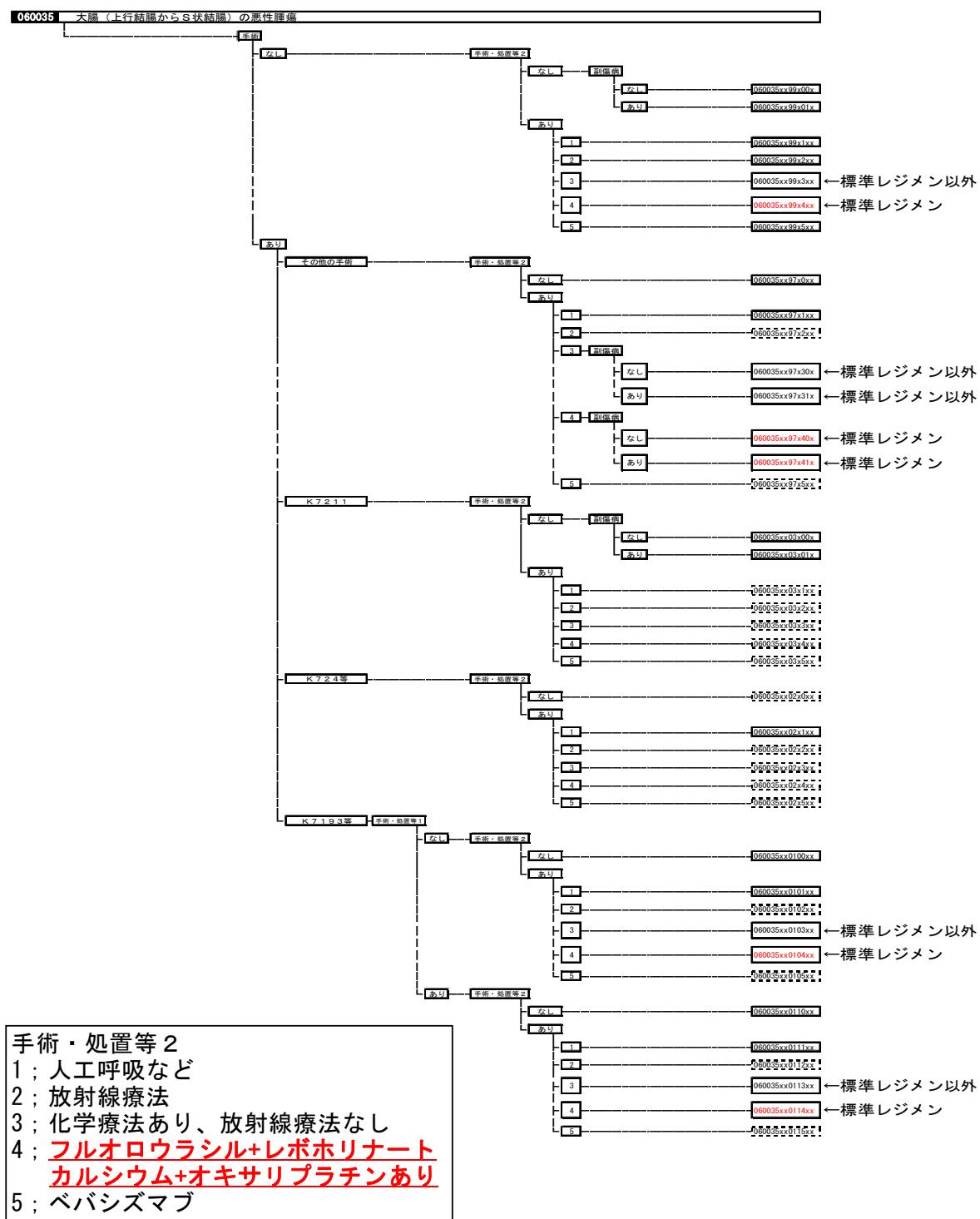
※ DPC対象病院平均とは、平成15～20年度DPC対象病院の平均値である



標準レジメン(大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍)

施設類型	施設名	平成20年度			
		標準レジメンによる	標準レジメン以外の化学療法	計	標準レジメン割合
平成15年度DPC対象病院	東京大学医学部附属病院	41	9	50	82.00%
平成15年度DPC対象病院	東海大学医学部附属病院	18	77	95	18.95%
	病院全体	2,741	2,151	4,892	56.03%

※ 病院全体とは、平成15～18年度DPC対象病院の平均値である



資料:平成20年度DPC導入の影響評価に係る調査データ(4~8月分)